

# 令和6年度水産業改良普及事業成果集目次（三重県）

## 1. 津農林水産事務所

- ①黒のり養殖における「獣害駆逐用煙火」を用いた食害対策について  
（普及項目：養殖）  
（漁業種類等：藻類養殖）  
（対象魚類：クロノリ）  
（対象海域：伊勢湾）
- ②四日市市地先におけるワカメの試験養殖  
（普及項目：養殖）  
（漁業種類等：藻類養殖）  
（対象魚類：ワカメ）  
（対象海域：伊勢湾）
- ③伊勢湾沿海地区における地域活性化イベントの再開について  
（普及項目：地域振興）  
（漁業種類等：青のり養殖・船びき網）  
（対象魚類：青のり（ヒトエグサ）・イワシ類）  
（対象海域：伊勢湾）

## 2. 伊勢農林水産事務所

- ①クロノリ養殖漁場における施肥効果の把握  
（普及項目：地域振興）  
（漁業種類等：藻類養殖）  
（対象魚類：クロノリ）  
（対象海域：伊勢市）
- ②若手漁業者を中心としたクロノリ養殖の協業化  
（普及項目：養殖）  
（漁業種類等：藻類養殖）  
（対象魚類：クロノリ）  
（対象海域：鳥羽市）
- ③パールコンポストを用いた農作物の生育試験およびコンポストの生産作業の省力化  
（普及項目：養殖）  
（漁業種類等：真珠養殖）  
（対象魚類：真珠）  
（対象海域：英虞湾）

- ④南伊勢町神前浦地区産学連携活動支援
  - (普及項目：地域振興)
  - (漁業種類等：魚類養殖)
  - (対象魚類：クロマグロ、マダイ)
  - (対象海域：南伊勢町)

### 3. 尾鷲農林水産事務所

- ①紀北町海山地区における渚泊推進への取組支援
  - (普及項目：地域振興)
  - (漁業種類等：－)
  - (対象魚類：－)
  - (対象海域：紀北町沿岸)
- ②みえ春ぶりのプロモーション活動について
  - (普及項目：流通)
  - (漁業種類等：定置網)
  - (対象魚類：ブリ)
  - (対象海域：熊野灘)
- ③遊木地区におけるヒロメ養殖の課題について
  - (普及項目：養殖)
  - (漁業種類等：藻類養殖)
  - (対象魚類：ヒロメ)
  - (対象海域：熊野市遊木地区)

### 4. 農林水産部水産振興課

- ①みえ真珠塾短期研修の開催
  - (普及項目：担い手)
  - (漁業種類等：真珠養殖)
  - (対象魚類：アコヤガイ)
  - (対象海域：英虞湾)

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	クロノリ
対象海域	伊勢湾

## 黒のり養殖における「獣害駆逐用煙火」を用いた食害対策について

三重県津農林水産事務所 矢野 央樹

### 【背景・目的・目標（指標）】

近年、黒のり養殖においてはカモやクロダイによる食害が問題となっており、様々な対策が試みられているが、簡易的かつ効果的な食害対策は見出されていない。三重県内でも同様の状況で、桑名地区では特にカモによる食害が多く、防除網により一定の効果はあるものの設置には大変な労力が掛かる。そこで、「獣害駆逐用煙火」を用いた食害対策を試み、比較的単価の良い黒のり共販1月までの生産枚数増産を目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

獣害駆逐用煙火（伊藤煙火工業株式会社）は主にサルを追い払うために開発された煙火で、取扱等に制限があるものの安全講習を受講すれば一般の人でも使用でき、鉄砲よりも使用のハードルは遥かに低い。そこで、漁期前に伊曾島漁業協同組合ののり生産者及び職員（計7名）が安全講習を受講し、煙火によるカモの追い払いを行った（写真1）。

### 【成果・活用】

同漁協の1月までの共販出荷枚数を図1に示す。今期（2024年漁期年度）の生産枚数は約500万枚で、昨年漁期年度の約900万枚より減少した。減少した主原因は高水温等により育苗に遅れが生じたことによるが、煙火にも課題はあった。煙火の爆発音によりカモは逃避行動を行ったため一定の効果はあると思われるが、カモの食害は夜間にも発生しており、断続的に防除をどう行うかが課題である。

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- 4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- ③ おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

### 【その他】

煙火の爆発音に似た音を発する爆音器を使用し夜間にも脅すなど、煙火だけではなく組み合わせによって効果的に防除できる対策を模索する必要がある。



写真1 煙火を使用する職員

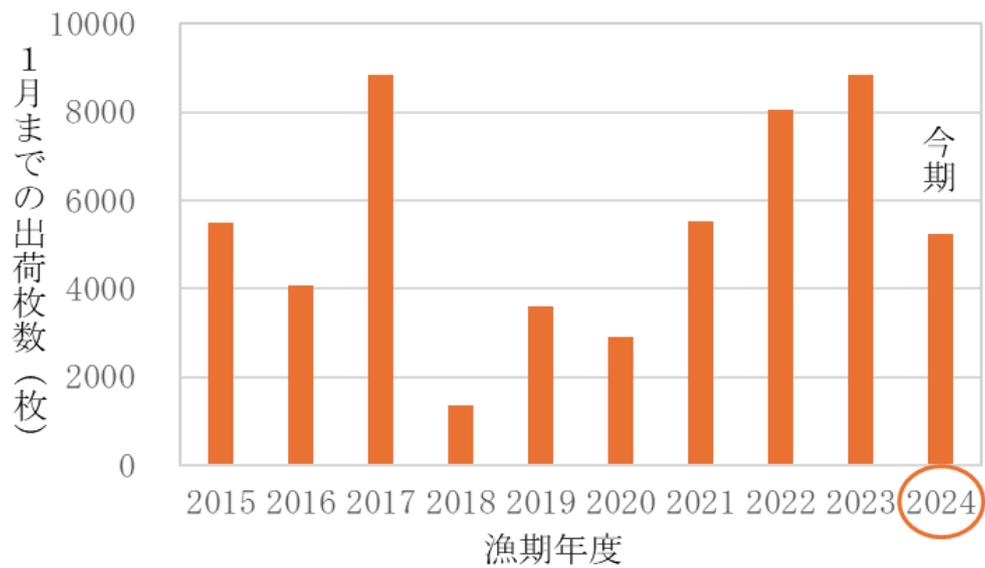


図1 1月までの共販出荷枚数

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	ワカメ
対象海域	伊勢湾

## 四日市市地先におけるワカメの試験養殖

三重県津農林水産事務所 水産室  
高木 勲

### 【背景・目的・目標（指標）】

四日市市においては、主にばっち・船びき網漁業、小型底びき網漁業、カゴ漁業が営まれている。しかし、冬季から春季にかけての漁獲物に乏しく、経営の安定化や新規就業者の確保のうえで課題となっている。

そこで、新たな漁業として近年伊勢湾内で取組が行われているわかめ養殖の導入に向け、令和4年から養殖ロープ1mあたり5kgのわかめ生産を目標として、わかめの試験養殖を開始した。

### 【普及の内容・特徴】

元黒のり養殖業者の3名が中心となって試験養殖を行うこととなり、種糸の入手や施設の準備・設置などの養殖方法について、鳥羽市の養殖業者から指導を受けて実施した。普及指導員は養殖施設を設置する漁場や養殖時期・方法に関するアドバイス、養殖作業時の現場指導等を行った。

### 【成果・活用】

試験養殖の結果、1年目（R4）は少量しか収穫できず、養殖環境が適していないことが考えられた。

場所を変更した2年目（R5）は十分な量の収穫を見込めることが確認できたが付着生物が多く、目立つことから販売店への出荷前に除去する手間が増える懸念が生じた。

養殖時期を変更した3年目（R6）は、養殖開始を遅らせたことで付着生物を少なくできた一方で、出荷時期が大幅に遅くなった。今後は、他地区の状況を確認しながら適切な時期の見極めをしていくこととしている。（表1）

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- 4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- ③ おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

### 【その他】

区画漁業権の取得に向けて手続きを進めるとともに、取得後に向けて出荷先や出荷形態、福祉事業所等と連携した加工品の開発・販売等の検討を行う必要がある。

表 1 試験養殖の結果

年度	養殖規模	養殖期間	試験結果	課題
R4	50m	11/17～3/6	20kg	排水の流入に起因する芽落ち、成長不良あり
R5	100m	11/14～3/31	500kg	付着生物が目立つ 3月下旬に大雨による出水があり一部葉体が流失
R6	150m	12/10～3/31	500kg	設置時期を後ろ倒ししたところ、成長が鈍化

図 1 試験養殖実施場所



写真 1 収穫の様子（3年目・R6）



普及項目	地域振興
漁業種類等	青のり養殖・船びき網
対象魚類	青のり（ヒトエグサ）・イワシ類
対象海域	伊勢湾

## 伊勢湾沿海地区における地域活性化イベントの再開について

三重県農林水産事務所 水産室  
原 健人

### 【背景・目的・目標（指標）】

伊勢湾内の津市白塚地区、松阪市狹師地区では、古くから当該地区の漁協が主体となって漁業まつり等のイベントを開催し、地元水産物のPR等を行ってきた。しかし、近年は漁協青年部員の減少や女性部員の高齢化などによる活動の担い手の減少、アサリやマイワシなどの主要漁獲物の減少、さらに令和元年度からは新型コロナウイルス感染症の影響によりこれらのイベントは中止され、漁村地域の活力の低下につながっている。そこで、これらの課題を踏まえて開催内容を見直したうえでイベントを再開し、地域活性化につなげることを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

津市白塚地区においては、令和3年度にこれまで活動の一翼を担ってきた地元水産加工業協同組合が解散するなど、担い手の確保が課題であった。そこで、地元の大学生等で構成されるよさこいサークルに協力を要請し、会場設営や当日の運営を依頼するとともに、物販や振舞いだけでなく、子ども向けのゲームコーナーを設けるなど、幅広い年齢層が楽しめる内容に変更した。

（写真1）

松阪市狹師地区においては、令和4年度から高齢化が進んでいた女性部活動の活性化に取り組み、若手の女性部員2名が加入することで担い手を確保した。また、これまでイベントの主役であったアサリは、近年資源量の減少により漁獲がない状況が続いていたことから、地元産の青のり（ヒトエグサ）を主役とし、県内他地区の漁協へも出展を募り、出店内容を見直した。（写真2）

### 【成果・活用】

開催内容の見直しにより、津市白塚地区では5年ぶりに「白塚さかなまつり」が、松阪市狹師地区では6年ぶりに「松阪漁業まつり」が開催され、それぞれ約3,200名、約1,000人が来場し盛況であった。

「白塚さかなまつり」の来場者からは「子ども向けコーナーがあることで、子ども連れでも楽しむことができた」といった意見が聞かれたほか、よさこいサークルの関係者が来場するなど、幅広い層の集客に至った。

「松阪漁業まつり」の来場者からは「松阪で青のりが特産であること知ることができた」「県内の様々な種類の水産物が購入できて良かった」などの声が聞かれ、地元松阪産だけでなく県産水産物のPRに大きく貢献した。

### 【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）

- 4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- ③ おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

### 【その他】

漁村地域の活性化において、地元水産物を活用したイベントの開催は効果的であり、その担い手の確保が課題となっていた。今回の取組では、若手女性部員や地元の若者グループなどを新たな担い手として確保することができたが、今後は、地元高校生や水産加工業者で働く外国人労働者などにも声掛けをし、関係人口を増やしていく必要がある。

また、漁港は漁獲物の水揚げ機能だけでなく、漁村地域の活性化の拠点としても非常に重要であることから、今後はレジャー関連施設や直売施設などの海業関連施設を整備していく必要がある。

### 【参考】



写真1 「白塚おさかなまつり」の様子（左：おさかな祭りコーナー、右：いわし寿司の振舞い）



写真2 「松阪漁業まつり」の様子（左：青年部による「あおさ焼き」「海苔焼きそば」の販売、右：女性部による「あおさポテトフライ」の販売）

普及項目	地域振興
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	クロノリ
対象海域	伊勢市

## クロノリ養殖漁場における施肥効果の把握

伊勢農林水産事務所 中西麻希

### 【背景・目的・目標（指標）】

伊勢市二見町沿岸ではクロノリ養殖が盛んにおこなわれており、地域の基幹産業となっている。

しかしながら、近年、栄養塩不足や海域の温暖化等により、毎年のようにノリの色落ちが発生し、生産量・生産額の減少の要因となっている。このため、当該地域では、令和4年度から漁協が中心となって、養殖漁場環境の改善のため試験的に施肥を実施している。その効果を把握するための試験を行った。

### 【普及の内容・特徴】

本海域は、冬季に風が強く波浪が発生しやすいことから、令和4年度及び5年度の施肥試験では固形施肥剤を使用しており、一定の効果がみられているため、本年度においても引き続き同じ施肥剤を使用することとした。施肥の時期は令和4年度、5年度は育苗期に合わせて10月の最も潮が引く時期に実施したが、今年度は漁業者からの要望もあり、それより早い8月20日に実施した。当日は、地区の漁業者と関係者14名で、油圧ショベルを使用して波打ち際に50個、支柱漁場の直下に150個、計200個の施肥剤を埋却した(図1)。また、12月12日に500個、2月6日に300個を支柱漁場の直下に追加で固形施肥剤を投下した。

効果調査は、通常栄養塩の供給源となる河川水の影響が強い河口(地点①)、波打ち際に施肥剤を埋却したところの直上(地点②)、施肥剤を埋却した支柱漁場(地点③、④)を比較することとした(図1)。

### 【成果・活用】

10/8～2/3までの間に計17回採水・分析調査を行ったところ、地点①(対照区)では、DIN(無機態窒素)が115.1～691.0  $\mu\text{g/L}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$ (リン酸態リン)が0.8～44.6  $\mu\text{g/L}$ 、地点②ではDINが39.8～834.5  $\mu\text{g/L}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$ が5.1～42.1  $\mu\text{g/L}$ 、地点③ではDINが36.9～787.9  $\mu\text{g/L}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$ が2.9～416.2  $\mu\text{g/L}$ 、地点④ではDINが37.0～669.9  $\mu\text{g/L}$ 、 $\text{PO}_4\text{-P}$ が1.9～649.6  $\mu\text{g/L}$ であった(図2)。

DINの推移をみると、分析開始後から徐々に数値が減ってきていたが、追加施肥により値が上昇し、徐々に低下している。また、 $\text{PO}_4\text{-P}$ についても、DINと同様に、追加施肥後に上昇してその後低下する結果となった。

最初の施肥剤の埋設を実施してから約2か月後の10月中旬のDINの数値はかなり高い値を示していたがその後低下した。追加で施肥剤を海域に投下後は、1か月半後には数値がかなり低下してきていることから、施肥剤を埋設したことで、単に投下するよりも栄養塩が長期間にわたって海水中に溶け出していることが考えられた。

今漁期は、施肥剤の埋設と追加投入によって支柱漁場については漁期を通じて栄養塩濃度が高い状態が保たれる結果となった。特に、漁場の直下に施

肥剤を埋却したことが、高い効果をもたらしたのではないと思われる。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた

【その他】

令和5年度及び6年度の施肥試験の結果、固形施肥剤の使用については、一定の効果が確認できた。昨今の海水の栄養塩の状況を鑑みると、今後黒ノリ養殖においては施肥が不可欠になると考えられる。今後はコスト面も考慮しつつ、より効果的な施肥方法を検討していく必要があると思われる。

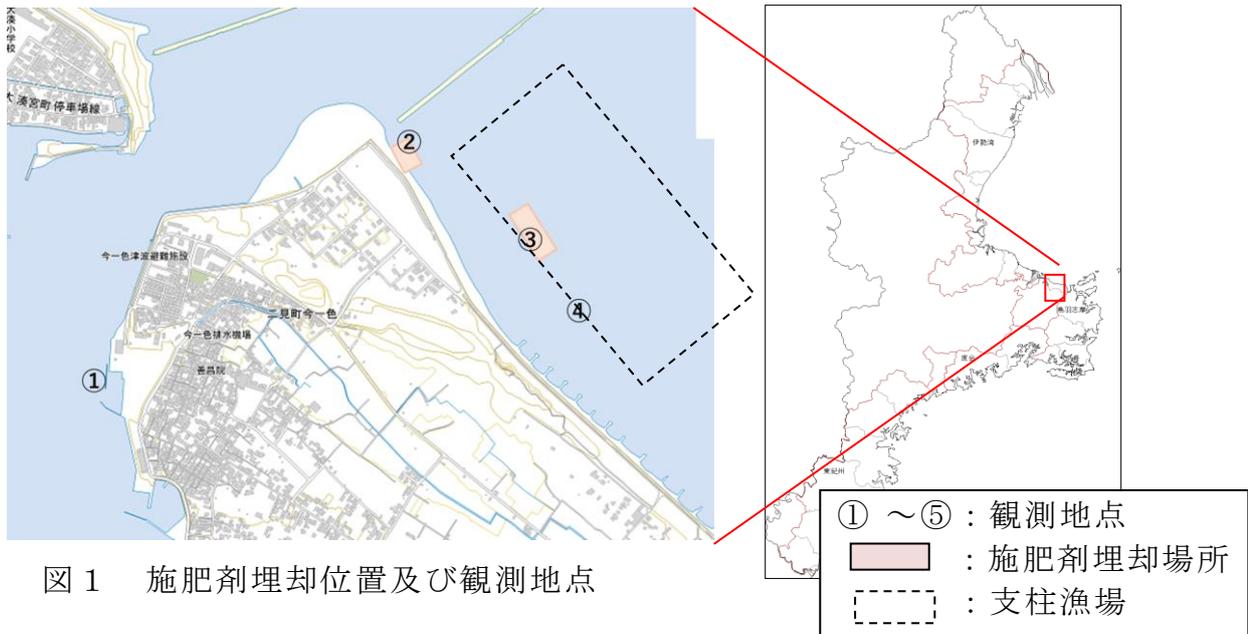


図1 施肥剤埋却位置及び観測地点

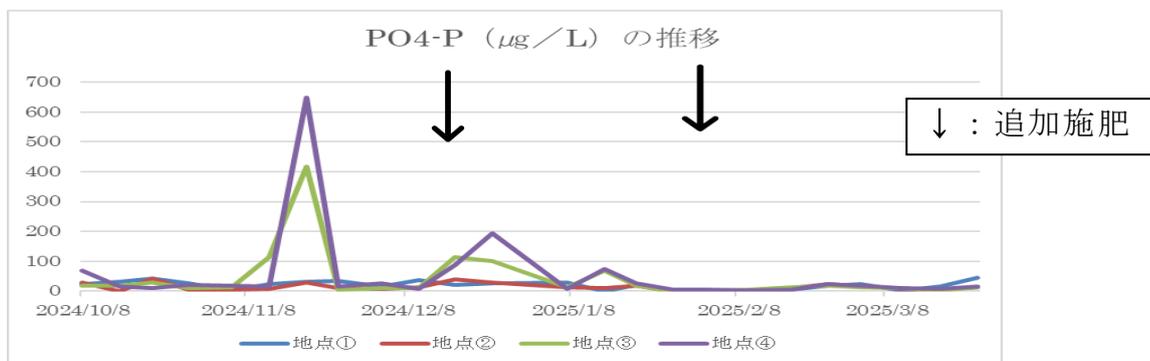
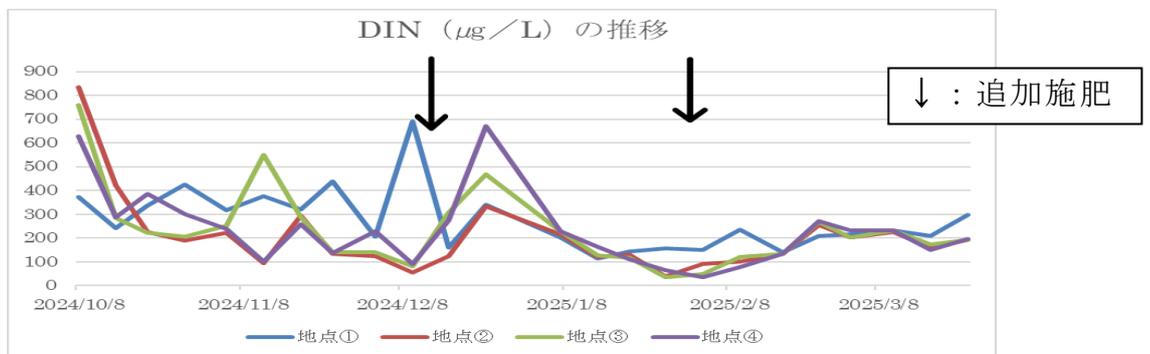


図2 栄養塩分析結果

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	クロノリ
対象海域	鳥羽市

## 若手漁業者を中心としたクロノリ養殖の協業化

伊勢農林水産事務所 稲葉 駿

### 【背景・目的・目標（指標）】

鳥羽市では、離島地域を中心にクロノリ養殖が行われている。平成 26 年から令和 2 年度に鳥羽磯部漁業協同組合により 3 地区に共同加工施設が整備され、漁業者は原藻生産に注力できる体制が整った。作業負担が軽減されたことで、若手後継者が少しずつ増えてきている。一方で、漁業者数の減少は続いており、空き漁場が増加してきている。そこで、若手漁業者（3 名）と、空き漁場の有効活用を目的とした生産性向上に取り組んだ。

### 【普及の内容・特徴】

高水温化及び過度な作業負担により、鳥羽地区のクロノリ養殖は秋芽網と冷凍網養殖を実施する 2 期作から、冷凍網のみの 1 期作となっていた。これは、秋芽網の撤去と冷凍網の張込時期が重なることが一因であるが、空き漁場で秋芽網養殖を養殖することで、撤去と張込時期が重ならない養殖計画を立てた。また、秋芽網作業を協業で行い、冷凍網は個々での生産を継続することで、地区内での競争を維持しつつ、生産性向上に取り組んだ。

### 【成果・活用】

#### ① スマート技術を活用した秋芽網養殖の復活

漁協及び漁業者に相談のうえ、冷凍網養殖の妨げにならない空き漁場を選択し、三重県水産研究所が開発した高水温耐性品種「みえのあかり」を混合した種を活用し、養殖を行った。令和 4 年度は養殖網 36 枚、令和 5 年度 60 枚、令和 6 年度 108 枚と養殖数量を徐々に増やした。三重県沿岸部に設置された水温観測ブイの水温をリアルタイムに確認し、育苗・養殖開始時期を見極めた。

その結果、秋芽網養殖試験を開始した令和 4 年度から 3 年連続三重県内で最も早い養殖開始と摘採を実現した。高水温化に伴う開始時期の遅れから出荷量が減少している 1 回目の共販に出荷したことで、高単価で販売することができた。

#### ② バラ干しノリへの加工

貧栄養化に伴うクロノリの色落ちが全国的な課題となっている。その対策として、色落ちしても市場評価が下がりにくいバラ干しノリへの加工に取り組んだ。板ノリ加工に比べて多くの人手を必要とするバラ干し加工ではあるが、協業化によるスケールメリットを生かして、シフトを組んで加工した。

#### ③ 生産成果

生産数量は令和 4 年度（板 4 万枚、バラノリ 159 kg）、令和 5 年度（板 20

万枚、バラノリ 107 kg)、令和 6 年度 (板 17 万枚、バラノリ 692 kg) であり、生産量は年々増加している。

#### 【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた (51~75%)

#### 【その他】

40代 1名 (養殖歴 20年) と 30代 2名 (養殖歴 5年未満) の 3名で実施した。副次的な効果として、他漁家と共同で作業を行う貴重な機会となり、養殖技術・知識が向上した。また、研究所に協力し、食害対策・色落ち対策の新たな技術試験にも積極的に取り組んだ。さらには、中小企業診断士や税理士等の専門家を招聘し、経営面での研鑽を積むことができ、法人化や有限責任事業組合設立など、様々な構想が生まれている。

地域内での競争も維持しつつ、一部を協業化することで若手が育ち、新たなことにチャレンジする気風が生まれた。



張込準備の様子



県水産研究所の色落ち対策試験準備

普及項目	養 殖
漁業種類等	真 珠 養 殖
対象魚類	真 珠
対象海域	英 虞 湾

## パールコンポストを用いた農作物の生育試験および コンポストの生産作業の省力化

伊勢農林水産事務所 辻貴大

### 【背景・目的・目標（指標）】

国際社会においては、SDGs やサステナブル消費に向けた取組の重要性が高まっており、消費者の認知度・利用意向も変わりつつある。英虞湾では、環境負荷を与えない持続的な真珠養殖の実現と消費者に選ばれる真珠生産を目指し、これまで未利用だったアコヤガイ貝肉を堆肥化する「パールコンポスト」の取組を進めている。令和6年度は、パールコンポストの農業現場での有効性を検証するため、農作物の生育試験を実施した。また、パールコンポストの取組を自走化させるうえで、生産作業の省力化が必要になってくるため、仕込み作業の一部を変更した。

### 【普及の内容・特徴】

志摩町越賀地区の農業者の協力を得て、令和6年5～7月に大玉トマトとミニトマトの苗を用いて、パールコンポストの有無による収量と糖度の差を調べた（写真1、2）。

また、令和7年1～2月に7地区（神明、立神、船越、片田、和具、越賀、阿曾浦）でパールコンポストの仕込みを実施するにあたり、粃殻を真水に浸透させる作業の一部を変更した。これまで、粃殻を真水に浸してから容器に入れていたが（写真3）、水分を含んだ粃殻の運搬に労力を有していたため、容器に粃殻を入れてから真水を加えるようにした（写真4）。普及指導員は志摩市水産課、三重県水産研究所、農業技師等と連携して、コンポスト作成やデータ取得等の指導・支援を各取組者に対して行った。

### 【成果・活用】

農作物の生育試験について、大玉トマトではパールコンポストを入れた試験区でパールコンポストを入れていない対照区より高い収量を示した（表1）。ただし、収穫を定期的には実施できず、熟し過ぎて落ちているものがあつたため、正確な結果とは言い難い。パールコンポストで収量が減るといった影響はみられなかったため、トマトの生育に対しパールコンポストによる悪影響はないものと考えられた。また、トマトは塩ストレスで糖度が上昇するという報告があるため、ミニトマトの糖度を測定したが、パールコンポストの有無による差はみられなかった（表2）。

生産作業の省力化について、作業の一部変更を行ったが、いずれのコンポストも堆肥化は進んでおり（図1）、真珠養殖業者から作業が楽になったとの声もあつた。作業の一部変更箇所は、令和3年度作成のパールコンポストのつくり方マニュアルに反映させた。

### 【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

【その他】

取組を継続させるための仕組み作りが必要と考える。



写真1 定植後の様子

左：コンポスト無、右：コンポスト有



写真2 収穫前の様子

左：コンポスト無、右：コンポスト有

表1 大玉トマトの収量

収穫日	対照区(g)	試験区(g)
7/19	680	2,175
7/31	795	3,555
合計	1,475	5,730

表2 ミニトマトの糖度

	1個目	2個目	3個目	4個目	平均
対照区	8.6	9.3	8.4	8.1	8.6
試験区	8.3	7.3	10.8	9.1	8.9

※糖度は、収穫したミニトマトのうち、各区から任意に4個取り出して測定



写真3 前の真水の浸透作業



写真4 変更後の浸透作業

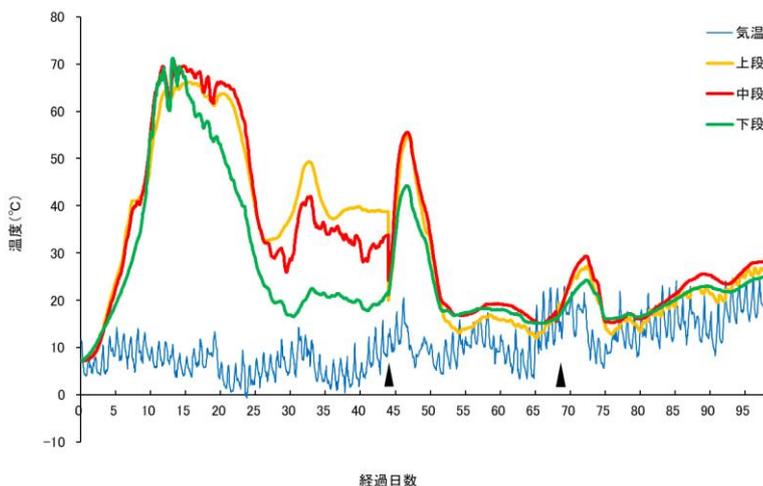


図1 コンポストの温度の推移（片田地区を参考に提示）

普及項目	地域振興
漁業種類等	魚類養殖
対象魚類	クロマグロ マダイ
対象海域	南伊勢町

## 南伊勢町神前浦地区産学連携活動支援

三重県伊勢農林水産事務所 堀明子

### 【背景・目的・目標（指標）】

南伊勢町神前浦地区振興産地協議会は、地区の漁業者、三重外湾漁協、県漁連、(株)ブルーフィン三重（クロマグロ養殖会社）、地域の関係者、町、中部電力（株）で組織され、平成25年度から活動しており、漁場環境保全、都市漁村交流、マグロ流通・加工の3つの取組を主軸としとしている。

中でもヒジキ場再生活動及び小学生向け体験は漁業者が主体的に取組を進めており、「子どもたちに先人から引き継いだ地域の資源を残したい」という漁業者の強い思いから10年以上継続されている。地域内での取組の認知は高いものの、県内外ではあまり知られていないことから、認知度向上を図る。

### 【普及の内容・特徴】

ヒジキ場再生活動、小学生向け体験の受入及び県青年・女性漁業者交流発表大会での発表を支援した。

ヒジキ場再生活動は、中部電力（株）、三重大学藻類学研究室から技術支援を受けて、令和6年5月30日に母藻採集、6月6日に幼胚散布、令和7年2月10日にモニタリング、3月11日に成果報告会を実施した。また、令和6年7月、9月、11月にはNPO法人SEA藻と連携してウニ類を駆除した。

小学生向け体験は、令和6年7月19日に神前浦アドベンチャー体験、令和6年11月12日に南島西・東小学校漁業体験を受け入れした。

・神前浦アドベンチャー体験 南島西小学校5・6年生18名、教員4名

参加者はオリエンテーション後、漁業者の操船する船に分乗し、神前浦湾内で地域の基幹産業のひとつであるマダイ養殖の生簀見学や伊勢志摩国立公園の特別保護区に指定される弁天島等の地形観察、飛鳥の浜へ上陸、原生の自然に囲まれた飛鳥神社、飛鳥池（海跡湖）を見学し、漁業者から祭事や地域に残る龍伝説について聞いた後、浜遊び体験をした。

・南島西・東小学校漁業体験 小学5年生17名、教員5名

参加者は開校式の後、漁業者の操船する船に分乗して神前浦湾内のマグロ養殖生簀に向かい、生簀に横付けされた給餌船上でクロマグロ養殖会社からマグロ養殖について説明を受け、サバやイワシなど投餌体験をし、下船後には漁協2階の会議室で塩づくりの工程の説明、竈方集落の伝承を聞いた後、地先の海水から作ったかん水を用いて塩づくり体験をした。

令和7年1月11日開催の令和6年度三重県青年・女性漁業者交流大会で協議会がこれまでの実績について発表した。

## 【成果・活用】

ヒジキ場再生活動では、採取した母藻を町種苗センターで追熟し、洗浄・濃縮し、幼胚約 6,675 万個を採取した。採取した幼胚は漁場へ運び、希釈して 4 箇所に分けて散布した。令和 7 年 2 月に実施したモニタリングでは、一部で食害が認められたものの、全体的に成長が良い様子が確認できた。なお、県内のヒジキ漁獲量は年々減少傾向にあったが、当地区では令和 2 年度以降に増加傾向に転じ、漁業者は活動効果を実感しているところである。また、2024 年に S E A 藻と連携した藻場再生・維持活動が J ブルークレジット認証を受けた。

小学生向け体験について、令和 5 年度には県北部の私立小学校から約 100 名を受入したが、今後も同校の受入を継続する予定である。また、活動を継続する中で地域の子どもが海に親しむ機会が減っていることが分かり、故郷の海の思い出をつくってほしいと願い、地元小学校を毎年受入している。体験に参加した生徒たちは大いに楽しんでおり、体験が子から大人へ、先輩から後輩へと語り継がれており、郷土愛の醸成に寄与していると考えられる。

県青年・女性漁業者交流発表大会において、協議会の発表は漁連会長賞を受賞し、県内での認知度向上を図れた。

## 【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）

## 【その他】

県内では植食性生物による食害が深刻であり、当地区も例外ではなく、ウニ類駆除の取組を更に進めていく必要がある。また、体験についても現状では受入漁業者の高齢化と減少により受入数をこれ以上は増やせない等の課題を抱えている。



写真 1

アドベンチャー体験の市場でのオリエンテーションの様子



写真 2

令和 6 年度三重県青年・女性漁業者交流発表大会での発表の様子

普及項目	地域振興
漁業種類等	—
対象魚類	—
対象海域	紀北町沿岸

## 紀北町海山地区における渚泊推進への取組支援

尾鷲農林水産事務所・丸山 拓也

### 【背景・目的・目標（指標）】

紀北町海山地区渚泊推進協議会は、自然体験等の観光ツアーの提供によって都市部と漁村の交流により地域を元気にしたいとの思いから、地元の元漁協職員や漁業者等が中心となって立ち上げた団体。海山地区を流れる清流「銚子川」、豊かな海に根差した水産業や海鮮メニューなど、地域の魅力の「体験による発信」を目指している。

### 【普及の内容・特徴】

当協議会の令和6年度の主な活動として、銚子川での体験ツアーの開発や取材対応、広告素材の作成、遊漁・漁業体験等の実施準備、紀北町から受託した水産業担い手育成の取組「水産スクール」の開催などがあった。

### 【成果・活用】

普及指導員は、役員会および体験部会にオブザーバーとして出席し、適宜アドバイスや支援を実施した。具体的には、広告素材の開発にかかるアドバイス、ツアー開発や取材対応にかかる労務支援や映像の提供、遊漁・漁業体験プログラムの開始にかかる法的手続きの案内及び支援、水産スクールでの放流指導並びに栽培漁業に関する解説などを実施した。

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- 4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- 3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

※自己評価が1、2の場合には、天候不順や活動の中止等、達成できなかった要因について以下に記載

### 【その他】

海業等、レジャー系の体験活動では、体験者への分かりやすい説明と安全確保は最も優先されるべきである。このような活動の支援にあたり、普及指導員は体験活動指導の講習等を受講することが望ましいと感じた。



役員会の様子



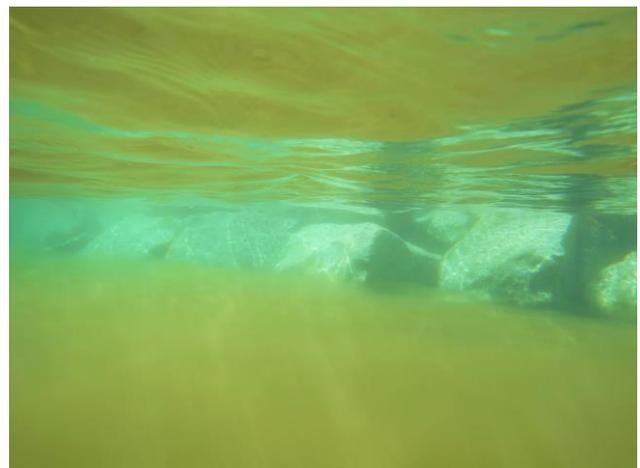
水産スクールでのマダイ種苗放流の様子



水産スクールで振舞われた養殖マダイ試食会の様子



銚子川筏下りの様子 (TV 取材)



銚子川河口域で観察される「ゆらゆら帯」  
(淡水と塩水の境界面)

普及項目	流通
漁業種類等	定置網
対象魚類	ブリ
対象海域	熊野灘

## みえ春ぶりのプロモーション活動について

尾鷲農林水産事務所水産室・伊藤 諒

### 【背景・目的・目標（指標）】

春先に熊野灘海域で定置網によって漁獲される天然ブリは、ほどよく脂が乗っており、非常に美味であるが、日本海側の寒ブリ等と比較すると、その知名度は低い。そこで、熊野灘沿岸の関係漁協や市町等で構成される「熊野灘ぶり振興協議会」は、春に三重県で漁獲される一定条件を満たした天然ブリを「みえ春ぶり」（以下「春ぶり」）と称し、情報発信やプロモーションを行うこととした。

### 【普及の内容・特徴】

尾鷲市役所、三重外湾漁協等と連携し、三重県定置漁業協会が作成した春ぶりに関するポスターやのぼり等の販促物を関係市町や漁協に配布した。役所内や漁協市場に掲示することで、知名度の向上を図った。

また、尾鷲市早田地区で開催された「早田ブリ祭り」において、春ぶりの試食・販売を行ったほか、販促物やメディアへの情報提供を通じて、情報発信とプロモーションを実施した。

### 【成果・活用】

3月及び4月の天然ぶりの単価は、春ぶりのプロモーション活動以降向上しており、活動による一定の成果は出ていると考えられる。ただし、平均単価は漁獲量にも大きく影響されることから、今後の動向を注視していく必要がある。

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- ④ 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- 3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

※自己評価が1、2の場合には、天候不順や活動の中止等、達成できなかった要因について以下に記載

### 【その他】

今後は、漁獲量が多い年にも高い平均単価を維持できるかを確認していく必要がある。

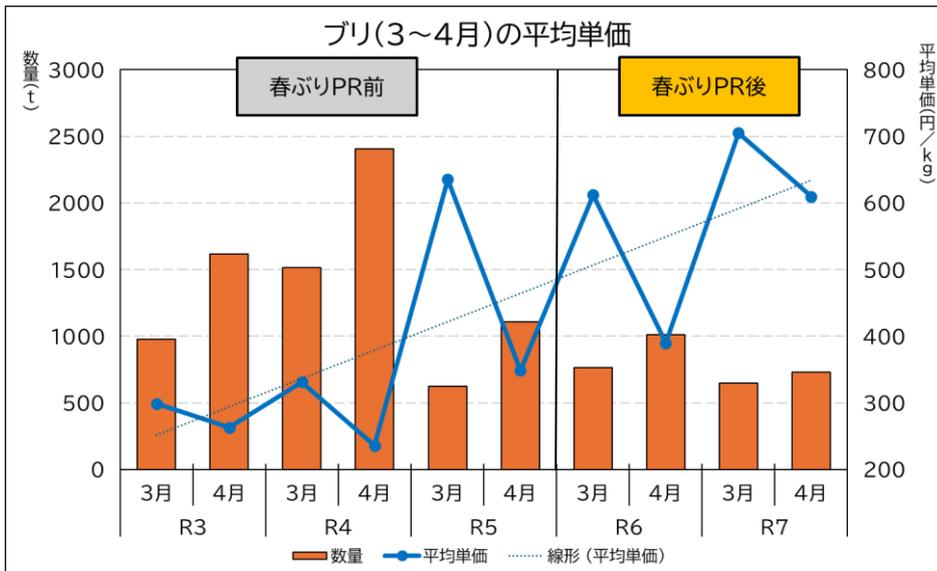


図1. R3~7の3~4月における三重外湾漁協管内の天然ぶりの数量及び平均単価の推移



写真1. 春ぶり宣言式

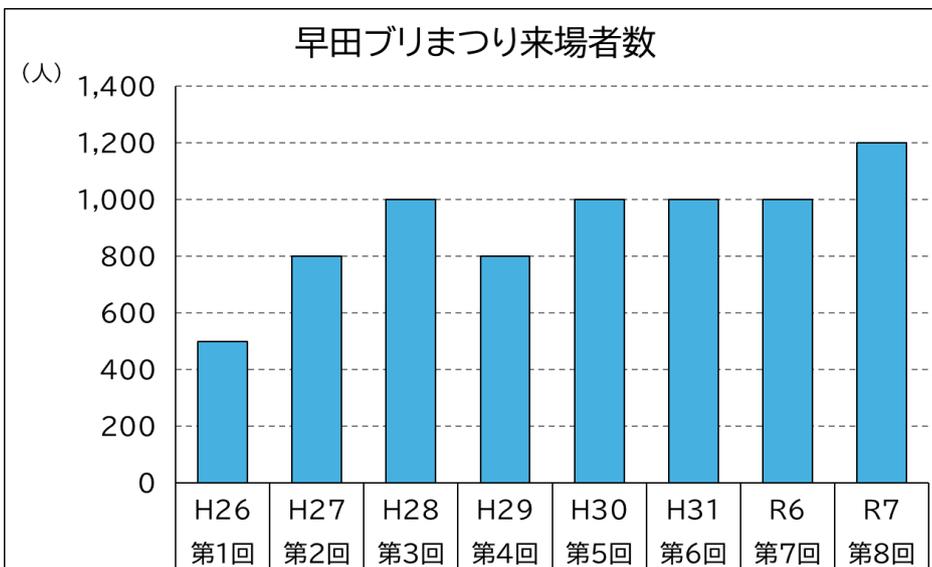


図2. 早田ブリまつりの来場者数の推移 (R2~5はコロナ禍により未開催)

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	ヒロメ
対象海域	熊野市遊木地区

## 遊木地区におけるヒロメ養殖の課題について

尾鷲農林水産事務所 水産室 出口 竣悟

### 【背景・目的・目標（指標）】

遊木地区では、さんま棒受網漁業が盛んであったが、平成 28 年度からサンマの水揚げがほとんどなく、今では出漁すらしていない状況である。サンマの不漁を受けて、平成 28 年度から新たな漁業としてヒロメ養殖試験に取り組んでいる。

ヒロメの生産量が不安定であるため、当該地区でのヒロメ生産量の安定化及び増加が目標である。

目標（指標）：ヒロメ収穫量 1kg/種糸 1m

### 【普及の内容・特徴】

令和 5 年度の収穫量は、令和 4 年度比の 3 割に留まった（表 1）。要因として、ヒロメの沖出しは種糸を塩ビパイプに巻き付けた後、養殖ロープに塩ビパイプを通し、種糸を巻き付ける手法だが、塩ビパイプに種糸が引っ掛かり、多くのヒロメが脱落したことから、塩ビパイプへの巻き付け方に問題があると考えた。そのため、他地区でヒロメ養殖業者の手法を参考にし、塩ビパイプへの種糸の巻き付け方を検討した。

### 【成果・活用】

塩ビパイプへの巻き方を工夫したところ、種糸からヒロメの脱落を最小限に留めることができたが、収穫量は昨年度に続き少なかった。種糸の沖出し時期（12/25）の水温が 18℃ 以上もあったことから、植食性魚類による食害の影響が考えられた（図 1）。しかし、養殖ロープは陸側と沖側の 2 か所に設置してあるが、沖側の養殖ロープの岸から遠い場所にだけヒロメが多く残存していた。このことから、岸から離れたところは食害の影響を受けにくい可能性があると考えられた。来年度は食害対策として、養殖ロープの設置場所をヒロメが多く残存していた場所を起点に、さらに沖側に設置する。

### 【達成度自己評価】

2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）

要因：収穫量減少の要因は、植食性魚類による食害の影響と考えられた。

### 【その他】

ヒロメへの付着物は少なく、綺麗な状態であった。（図 2）。

表 1：遊木地区ヒロメ生産量の推移

	H 28 年度	H 29 年度	H 30 年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
種糸 (m) A	20	300	400	500	700	400	400	400	300
収穫量 (kg) B	0	0	579	373	192	1708	829	216	134
目標 (指標) B/A	0	0	1.45	0.75	0.27	4.27	2.07	0.54	0.45

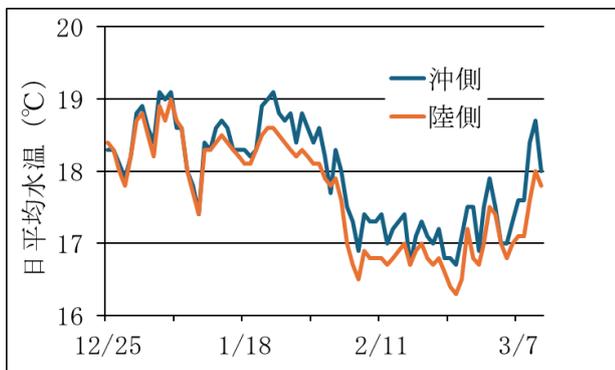


図 1. 表層水温の推移



図 2. ヒロメ収穫作業

普及項目	担い手
漁業種類等	真珠養殖
対象魚類	アコヤガイ
対象海域	英虞湾

## みえ真珠塾短期研修の開催

農林水産部水産振興課・鈴木 康治

### 【背景・目的・目標（指標）】

本県の真珠養殖業経営体数の減少が進行しており、真珠養殖業の維持・発展のためには次世代を担う人材の確保・育成が必要になっている。そのため、真珠漁協、真珠養殖業者と連携して、真珠養殖現場での作業体験等を通じて、真珠養殖業への理解を深めてもらう「みえ真珠塾短期研修」を開催しており、今年度は研修生1名以上の受入を目標に活動を行った。

### 【普及の内容・特徴】

真珠養殖業者と協力し、令和6年9月に3日間、英虞湾内の養殖漁場において、大学生2名の研修生を受け入れ、真珠養殖作業の稚貝の分養、貝掃除、貝の抑制及び挿核作業の体験を実施した。

水産業普及指導員は、関係者間の調整などの研修に向けての支援や研修当日のサポートを実施した。

### 【成果・活用】

今年度は研修生2名の受入につながったことから、目標を達成したものの、就業につながった研修生は居なかった。

### 【達成度自己評価】

- 5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）
- ④ 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）
- 3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）
- 2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）
- 1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

### 【その他】

今後も引き続き、当該取組を継続するとともに、研修生を受け入れる真珠養殖業者の拡大や研修人数の増加を図っていきたい。

【参考】



写真1 稚貝の生育確認



写真2 挿核作業



写真3 貝掃除作業